

令和5年度第3回 地域公共交通会議 会議録

日時:令和 6 年 1 月 9 日(火)10:00~12:00

場所:南伊勢町役南勢庁舎3階会議室

出席者:18名(定数20名)

出席者のうち委任状による代理出席2名

- ・上村町長
- ・住民代表(田畑委員〔会長〕、竹内委員、田中委員、島田委員 代理出席)
- ・学識経験者(名古屋大学大学院環境学研究科 加藤教授〔副会長〕)
- ・福祉有償運送事業者(南伊勢町社会福祉協議会上村南島支所長)
- ・交通空白地有償運送事業者(NPO 法人わがら濱口理事長)
- ・一般乗合旅客自動車運送事業者
(三重交通(株)バス事業部長 代理出席、大新東(株)南伊勢営業所古市所長)
- ・一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者(三重県タクシー協会伊勢志摩支部長:三交タクシー)
- ・一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体
(伊勢志摩交通労働組合執行委員長)
- ・中部運輸局三重運輸支局(首席運輸企画専門官)
- ・伊勢警察署(交通規制係長)
- ・三重県(地域連携・交通部交通政策課長 代理出席)
- ・三重県伊勢建設事務所(副所長兼保全室長)
- ・南伊勢町(観光商工課長、子育て・福祉課長)

事務局:南伊勢町 環境生活課課長 瀬古、生活交通係 係長 長尾、片岡



1 会長あいさつ

2 報告

三重県地域間系統事業評価について 三重県地域連携部交通政策課

3 議題

1) **協議(議決)**

令和5年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価(案)について 資料1-1

「南伊勢町地域公共交通計画」に関する自己評価(案)について 資料1-2

- 2) 協議 吉津路線における道路運送法21条申請について
- 3) 協議(議決) 町営バスダイヤ改正
- 4) 協議 2月1日からのデマンドバスの運行について
報告 切原中津浜浦実証実験運行事業について

4 その他

旅客運送 2024 年問題への対応について、フォトコンテストのお知らせ 中部運輸局三重運輸支局

(事務局:瀬古課長)

～ 挨拶・資料確認 ～

では会長からご挨拶をいただいた後、南伊勢町公共交通会議設置要綱第 4 条の 3 項に基づき、田畑会長に会議を統括いただきますので、よろしくお願いいたします。

(田畑会長)

南伊勢町地域公共交通会議の、第3回会議を開催させていただきます。

～ 挨拶 ～

まず、今回の会議も 20 名中 18 名出席で、委任状提出が1名、会議が成立することをお伝えします。
よろしくお願いいたします。

では報告、三重県交通政策課、代理出席 松島主任さん、よろしくお願いいたします。

(三重県:代理出席 松島主任)

三重県交通政策課の松島と申します。本日は課長の藤田にかわり、出席させていただいております。

三重県地域間幹線系統の事業評価について、南伊勢町様を運行している5路線を報告いたします。

～ 評価項目の見方・結果説明 ～

この路線を維持するための国や県の補助金をもらうには、輸送量 15 人以上が条件となります。今は路線バス事業単独で、収支を成り立たせ維持することは厳しく、補助が必要不可欠とされています。今回の結果は、五ヶ所 A,B 線が僅か 15 人に及ばず、来年度以降維持していくために、三重交通さん、沿線伊勢市さん、南伊勢町さんと相談中で、この地域間幹線は県が維持していく路線として、維持確保に取り組みます。

しかしながら、沿線市町様、関係の皆様のご協力がなくして、維持できないものと考えておりますので、今後も引き続きご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

(田畑会長)

ありがとうございます。委員の皆さまご意見ございますか。

(加藤委員:名古屋大学教授)

地域間幹線系統はコロナ禍措置がもうないので、非常に致命的なことで、15 人を下回らなくても、5 路線とも以前から 20 人未満で非常に危機的な状況ですので、何とかしないとイケません。県の考察を見ても、何も書かれていないのに、このデータだけだと何もわからないですね。

例えば、5路線の出発点も町内で異なりますが、実は伊勢市内での利用が多く、南伊勢に入ると少なくなるとか、南伊勢から乗る人は長い距離を乗るので収入としては大きいなど、それぞれの特色や、通院のポテンシャルや、それに対する利用量、今後高校生が減少する中、どの程度の確保が可能かなど、分析できていないと、対策できない。兎に角「乗れ」と言っても乗ってもらえず、もう少し詳しいデータを出していただき、検討したいと思います。この資料だけでは、「大変だな」「どうしようかな」だけで終わりです。

例えば奈良県さんは6、7年ぐらい前に、酷い路線は全部1年半の内にやめると仰って、そのあと県が急いで計画を作りました。デッサンと言います。例えば南伊勢の幹線やその支線がどういう状況か、非常に詳しく分析してという風に、それぞれの役割と内容を決めて実施することについて県が計画を策定し、進んだ経緯があります。

三重県は今年、地域公共交通計画を策定しなければなりません、先のデッサンみたいなものができていますか？それが無いのにみんなで検討しようとしても、検討のしようがないので、そこを何とか考えていただきたい。県として責任を持ち、15人割れでも路線維持していただければ我々は何もやりませんが、兎に角「乗れ」ではしようがないので、そこを三重県さんはどう考えてみえるのか。県がもし計画を立てるのであれば、そういうことを計画しなければいけないので、今日はそう言ったことを報告して欲しいし、毎年結果だけを見せられても何もできません。いかがですか。

(田畑会長)

はい、加藤委員ありがとうございます。三重県さんいかがですか。

(三重県:代理出席 松島主任)

ご指摘いただきありがとうございます。全く仰る通りでございます。

三重県の地域公共交通計画につきましては、令和6年3月末の完成を目指しており、加藤教授からご紹介いただいたデッサンや各路線の詳細な分析は、現在お示しできるものはなく、非常に心苦しいです。

しかし、そうした路線の詳細な状況の分析は、必要だと思っており、どういったものを分析していけばいいのか、どういったことを調べていけばいいのかということについても、いろいろご指導いただき、研究したり、直したりしながら進めて参りたいと思います。

この五ヶ所線 AB につきましては、非常に応急措置的な形ですが、現在三重交通さんをご相談し、来年の10月1日から五ヶ所 A 線で1往復、B 線で2往復を増便し、三重県がその増便費用について、全額ではございませんが支援する方向で、検討、議論しております。以上です。

(加藤員:名古屋大学教授)

大事なことなので申し上げます。今の1便増便や2便増便などは、南伊勢町が望んでやっていることですか。町が望んでないのに、勝手にやるのはおかしいし、その話は今、初めて聞きました。

確かに増便すると誰か乗って、15人に近づくありがちなやり方ですが、税金の投入が増えることについてどう説明しますか。三重交通さんも負担され、三重交通さんとしても体力が奪われます。

三重交通さんは、この路線自力では国県の補助金が残せないし、町にも頼めないから、路線がなくなるのは町民も大変なことだから、そうしてでも残そうと考えてくれる有難い会社で良いですが。

そんなことを議論しないで、知らないうちに運行して、増えたから良かったとなると、「増えたからいいね」と、「乗っているね」となり、逆の印象を町民の皆さんに与える可能性があります。利用が少ないから増便し

たと、「だからお金はあるのね」となって、非常に問題だと思えます。

計画は何のために策定するのか。分析をせず 3 月に策定とはどんな内容がそこに書いてあるのか。非常に僕は問題だと思えます。三重県はまだ計画が出来ておらず、遅れていることを理解いただきたい。我々が何をする必要があるので、情報が出ないのが問題です。

三重県では伊勢市、鳥羽市とあり、いずれも同じ関係している路線が出てきたと言いましたが、南伊勢は本当に全部こういった路線で、南伊勢町としてももちろん考えて、やるべきことをやらなくてははいけない。

しかし、南伊勢町だけでやっけていてもしょうがないので、その辺考えていただきたいです。

だから、今ここで委員の皆さんに危機意識を持っていただきたいので言っています。県としてただ 15 人を割り込んでいるからと言うことなら、「どうしよう」「だけど、考えることができない」と皆さんが思ったら困るので、是非、この地域間幹線をどうやって維持するか、そういうことについて議論するのか、そういう場を作っていただきたい。計画策定できたとしても、中身の無い計画だったら、全部路線がなくなってしまうので、何年かの内にそうならないようにと考えていますので、よろしくお願いします。

(田畑会長)

加藤先生、ありがとうございます。本当に危機感を持つべきですよ。みんなが危機意識を持って真剣に取り組み、乗り越えたいですね。そういう問題点を、共有して、解明して、その本質にどういうふうにして取り組んだらいいのか、それを乗り越えていくのがこの地域の力だと思いますね。ありがとうございます。

次の議題に入ります。一つ目の議題は、維持改善計画に関する自己評価の案ですね。事務局お願いします。

(事務局:長尾)

～ 資料 1-1、1-2 事業評価説明 ～

(田畑会長)

この時期になりますと事業評価として、ここでまた議論を賜るわけですが、いまの資料を見て、或いは説明を聞いていますと、町長さんが任命した住民代表の皆さんが、随分生の声を日頃から出してくれて、それも大いに反映されています。行政さんが声を聞いて積極的な改善点を、現場へ行って、確認をしてくれ、新しいものを運行できました。質問、意見がありましたら、聞かせてもらえばありがたいです。いかがでしょうか。

(古市委員:大新東(株)南伊勢営業所)

感想とその改善点ですが、人口が今 10,940 人で、確か 10 年前は 5000 人程度多かったです。

目標も 1 日 70 名と掲げていましたし、その当時は 72、3 人、1 日で運んでいましたが、今は 60 人さえも越えられないです。私どもの努力不足もあるのですが、この数年、先ほど出てきました、阿曾浦の大方竈線、南島西巡回バスというところで、私達が町内全域を区域運行で 4 台運行していた時とは大きく違ってきていると思います。実際に乗せている人数は減っていますが、その 4 台の有効活用というのが、今大きく改善すべきところだと思っており、こちらからの働きかけでは難しいところもありますが、町内交通体系全体の一部のデマンドバスと、各交通事業者での全体の交通体系の中で、役割を明確に分担し、南伊勢町さんと共有し、今後もうまく、できることを全部、やっていきたいと思っています。

(田畑会長)

「わがら」の濱口委員さん。委員さんみずから実行してみて、何かあればちょっと教えて欲しいのですが。

(濱口委員:NPO法人「わがら」理事長)

現在の利用者についての人数は丁度うまいこと対応できているかと考えています。

昨年後半ぐらいから、会員さんの中で元々は送迎サービスを希望されてなかった方も、免許返納等で新たに送迎希望する方が増えてきました。会員皆さまそれぞれのお年ですので、施設等や子供さんのところに転居されるなどもあり、この先も今の人数くらいで推移していくと考えております。

運行の状況としては、若干の余裕を持ちながら実施していけると考えております。送迎については近場が殆どですが、近いが故に複数回送迎を頼むことについて、遠慮がちになる会員さんがいます。昨年も少し無理をしてバスを利用した際に、バス停付近で側溝にはまり骨折された方がみえ、まだ入院されてみえます。

運動のためと歩かれる方もみえますが、無理せずに送迎利用してくださいね、と声掛けしています。

運動は余裕のある時にしていただきたいと思っていますが、運動がてら片道は歩く会員さんもみえます。

それと町立南伊勢病院への送迎が増えると予測していましたが、運行当初、デマンドバス利用の方へは引き続きデマンドバスをお勧めしたこともあり、町立病院への送迎は増えていません。

一番増えてきたのは隣町の志摩市浜島町の医療機関への送迎で、志摩市でありながら6km前後ではありますが、町外になるので福祉有償で運行しています。そこまでは、三重交通さんの広域幹線が運行しているので利用者を取ってしまった感じもあります。以上のように 6 年度も、今まで通り運行していけると考えています。

(田畑会長)

最近、時々欠席されるから、新しい事業を展開しているのか、それとも本来の業務が忙しくドライバー業に徹しているのかと思っていました。そうなれば本当にすごいなと思ったりしていたところです。

(濱口委員:NPO法人「わがら」理事長)

やはり急な送迎依頼や、伊勢などへの遠距離運行については、私自身が運行するような体制をとっていますので、申し訳ありません。

(田畑会長)

それは構いませんが、やはり潜在的な需要が忙しいのだと感じており、それを知りたかったのです。

この町に住んでいる人間としても行政ばかり頼ってもだめなので、もちろん行政から後押ししてもらうことは大事ですが、自発的に活動されておるということで、一つの風を起こしましたよね。

(濱口委員:NPO法人「わがら」理事長)

私達は高齢者事業をしていますが、現在総会員数が116世帯で151名です。そのうち送迎を希望して利用している会員さんが、交通空白地事業で130名位、宿田曾地区外への送迎も希望する福祉有償の会員さんが100名位です。

(田畑会長)

ありがとうございます。今まで事業者側からの実態や感想をお聞かせいただきました。

どうですか住民代表の皆さん。このデマンドバスは、当初は認知度が低くそれも問題でしたが、竹内委員さん地域での変化はいかがでしょうか。

(竹内委員:住民代表)

自分は利用しないのですが、近所の方や、知った方がデマンドを利用する姿は、私の贄浦でも見かけます。

この会議に参加させてもらってから、いろんな形で高齢者の方にPRしていくといいなと発言したことがあったと思いますが、徐々に浸透してきている気がします。利用に慣れた方からは、バスがないからデマンドバスを使うなどとお聞きし、すごいなと思い、頼もしく思っています。やはり、引き続きいろんなところでPRしていただくといいと思います。

それと小学生のバスの乗り方教室についても小学校でやっていただくので、バスの話を孫たちもします。地区に友達がないので、遊びに出かけるのに保護者の人が送迎することが本当に多いようです。そういう時にバスがあるといいのですが、上手くは合わないの、何時ぐらいがいいのかなって、ダイヤを見ながら考えています。そこら辺も子供達がうまく利用できるようになっていくといいかなと思います。小学生や中学生が塾に通うときの時間とかも、引き続き検討していつうまく合うようにできるといいなと思います。

(田畑会長)

ありがとうございます。デマンドバスが実証実験を経て、運行を始めてもう10年経ちました。

その当時は車やバイクを乗って、「高齢者のバス」と感じていた方も、最近は「便利だわ」とご利用いただいています。アピールや利用促進は新たなユーザーがいるので、どんどんこれからも進めていってくださいね。

皆さんにいただいたご意見を踏まえて事務局と相談して、一応この案を原則的に、了解してもらうことで、いいでしょうか、いかがでしょう。加藤先生どうですか。

(加藤委員:名古屋大学教授)

全体としてはいいですが、地域間幹線、中部様式の7頁目についてはさっき言いましたが、実証実験とはその増便のことを意味しているのはわかりませんが、注意してやっていただきたい。このやり方によっては、全く効果が違うと思います。やっても良くなかったと大変なので、どういう方法か自体がここで議論されるべきだと思います。その議論をやらないで、実証実験してうまくいかずにこの路線がなくなるなどあってはならないので、注意して欲しいと思います。

あとデマンドことが話題になりましたが、デマンドはもっと個人の動きがわかるはずで、70人が53人になった「その抜け」はどこからどこが抜けたのか調べないといけない。本当に他の新路線や町営バスに移ったのか、それとも出控えになったのかなどいろいろあるはずで、理由も地区によっても違うでしょう。

それらを分析する必要があるし、お断り件数について件数だけ見っていますが、乗合率も非常に大事で、1運行でどれだけ一緒に乗れるかで53人は上げられるなら、一体どうすればもっと乗り合えるかとか。そうすると、通常だとある程度目安の乗車時刻を地区設定して運行すると、乗合が増え、効率的に運行できます。ですので、今のような運行体系より、ある程度目安時間で運行する方法など検討していく必要があると思っています。そのためにもやはり地域間幹線と同じで、データの必要があります。

あと、高校生高齢者観光客の中身が全然ない。高校生の話はさっき言った通りですが、高齢者とか、観光客の動きが何もないので、例えば来年度、三重県さんや、或いは町として調査するのであれば、それを調査しないと何も得られないので書いておいた方がいいと思います。

というのは結果的に、ニーズに対応できていないとか、或いは使えるはずなのに全然利用されていない、それはお知らせしてないので利用いただけない、そういうウィークポイントが出てきたとしたら、南伊勢町の場合、「わがら」さんも含めて、お出かけガイドや、それぞれの方向への町営バスやデマンド利用情報を与え、出すことが必要だと思います。

この情報を出すというのは、路線やサービスが情報を出せるようにできてないといけないので、ガイドを作ること自体が、路線を踏まえて見直し、考えることも一緒にできるわけです。それを考えないと、とてもおかしなことになるので、お出かけガイド的なものを作るのも、対応策として考えたらいいと思います。

最後に、支線やデマンドも地域間幹線と乗り継ぎができていないのかはずっと謎です。この支線を作ること幹線に接続したと言っていますが、繋げて実際乗り継いだという人がいるかどうかの調査が必要です。

最後に余計ですが、伊勢の会議で出た沼木バスについてですが、度会町の川口から度会校舎に行く朝の路線があり、利用が年間 5 人で全く乗っていないとのことでした。もちろん川口からだと、中村地区など度会町の方が乗りますが、南島の人の利用が考えられます。この沼木バスは伊勢市が運行していますが、殆ど度会町を運行していて、伊勢市の会議だとその路線が必要なのかわからず、度会町も続けて欲しいと言っているのと続けるとの話が出ていました。南伊勢町の高校生も使える路線で、南伊勢町はどう考えるかですよね。そういう話は、僕が言わないと全然出てこないし、全然気にしてないですよ。

川口から南伊勢高校校舎に行く便がない場合、その学校を選ばないことも考えられますが、学校までは自転車で行ける別にいらなくなり、この地域間幹線に 1 人でも多く乗車してもらい、或いは、その為に便を走らせても意味がないので、南伊勢町としてはいらないと考えているなど、考えないといけません。そういうことを 1 個 1 個やってないなと思い、言っておきました。

(事務局:瀬古課長)

すいません、いろいろご指摘ありがとうございます。

阿曾浦地区ですが実は店舗がなくなりましたので、10 月の町営バスダイヤの改正でも、コメリ・ぎゅーとらや買い物に行きたいなど要望があり、「何時のバスに乗って何時に換えて、何時間くらいお買い物できて、何時のバスで帰ってきたいよ」というチラシを作成し各戸配布し、非常に好評でした。

あと、度会町の沼木バスですが、今までは川口から自転車で通学していたのですが、その中で交通事故等もあり、当時の議会を始め皆さんの働きかけで、そのバスが運行を開始したものです。川口バス停にある駐輪所は、度会町さんが南伊勢町の高校生のために作っていただきました。協力をしながらできているものであり、決して意識がない訳ではなく、そういった協議をしながら、今も取り組んでいるところです。

(加藤委員:名古屋大学教授)

意識している、していないではなく、利用がないです。意識しているのであれば、ここに使ってもらいたいとか、書く必要がありますよね。ここで書かなかつたら一体南伊勢町の方は、どうやってその路線が利用できることを知ることができますか。これらを利用してもらえば、ほんの少しご利用がふえますよね。

逆にさっきのコメリ・ぎゅーとらのチラシなんて、非常にいいものですが、ここに書いてありましたか。そういうのを作っているということが、大事です。それをもっとしなければならぬし、それが非常に大事なPDCAだと、そういうふうと考えていただきたいです。

(田畑会長)

いろいろと示唆に富んだご指摘ありがとうございます。

また事務局の方で、追加或いは修正をさしてもらいまして、私が見させていただき、三重運輸支局に提出いたしたいと思います。ということで、議題 1 番目に、ありました自己評価について、皆さんに同意いただいたということで、終了させてもらってよろしいですか。

～ はい(全員) ～ ありがとうございます。

では協議事項の 2 番目です。町営バス吉津路線における道路運送法 21 条の申請ですが、係長から説明をよろしくをお願いします。

(事務局:長尾)

資料 2 をご覧ください。町営バス吉津線ですが、現在 21 条で神前タクシーさんが運行いただいております。令和 6 年度以降も引き続き 21 条申請をして参りたいと考えておりますので、令和 5 年度どおりの「月水金運行」、午前 3 便ということで運行させていただきたいという旨のご報告です。よろしくをお願いします。

(田畑会長)

ただいま説明いただきましたけども、従来通り認めていただきたいってことですね。異議ございませんか。

(加藤委員:名古屋大学教授)

21 条はいつまでの予定ですか。

(事務局:長尾)

一応、来年度 1 年間の間に乗り合いの許可を取っていただく形になっています。

(加藤委員:名古屋大学教授)

一応で大丈夫です。わかりやすく言うと神前タクシーさんはまだ乗り合いの許可がないのでということですね。ですが実績はあるということになり、来年度も 21 条で運行するというふうですね。これは支局さんとしてもそれで大丈夫ですか。

(前葉委員:中部運輸局三重運輸支局首席専門官)

確か、最大3年間ですので大丈夫です。

(加藤委員:名古屋大学教授)

21 条の意味がわからないといけないので説明します。21 条というのは、貸切バスの許可で乗合運行をするということになります。乗合運行はそれぞれのお客さんからお金を取って運行することで、本来貸切バスは乗合運行できないのですが、そういう意味では神前タクシーさんは乗用タクシーなのでそれも同じで、乗合運行ができません。というのを、こういう会議で認めるとかとかやってもいいよとなっています。但し 3 年以内、3 年過ぎたら、基本的に 4 条という表現に移らなければなりません。問題ないです。

(田畑会長)

ありがとうございます。令和 6 年度も、運行を継続させていただきたいという事で、事務局からありました。これも、了解をしていただいて、よろしくお願ひいたします。

3 番目の議題は、ダイヤ改正でございます。事務局、お願ひします。

(事務局:瀬古課長)

令和 6 年 4 月からの町営バスダイヤの見直しです。迫間口 19 時 40 分発南島道方行について、10 月からの実績ですが利用者がゼロで、今後の利用も見込めませんので減便したいと考えております。

次に宿浦線、南勢野添 18 時 40 分宿浦行です。この便は土日祝日に運休となるほか、8 月夏休み期間など学校が休みの日も運行しない「学休日運休」便です。学生ではない一般利用者の方から非常に苦情が出ておりました。こちらについては、学校の休校ではなくて、土日祝日運休に変更したいと考えております。

次に宿浦線、五ヶ所 20 時 2 分発木谷行ですが、木谷までだった運行を宿浦行と延伸し、こちらも現在の学休日運休を、土日祝日運休と変更したいと考えております。

次に南海線、五ヶ所 20 時 2 分発相可行と、朝の里谷 8 時 1 分発についても、現在の学休日運休を、土日祝日運休と変更したいと考えております。

これら南海線、宿浦線の4便については、学休日運休を、全て土日祝日運休の曜日運行としたいと考えております。よろしくお願ひします。

(田畑会長)

これは現場のニーズに基づくものですか？利便性を向上したいと言うわけですね。

(事務局:瀬古課長)

はい。高校生の下校についての移動手段確保で、特にお母さん方から何とか宿田曾まで伸ばしてもらえないかと声が出ておりました。木谷区間の国道も良くなりましたので可能になりました。

それと通勤されている方もみえて、学校の夏休みにバスがなく非常に苦労しているという声がありました。

(田畑会長)

はい。そういうことだそうです。ただいまの提案に対して、皆様方、異議ございませんか。

(加藤委員:名古屋大学教授)

はい、全体の主旨としてはいいのです。南島連絡の最終便、迫間口からの便は乗っていないのだろうと、理解できます。この 1 個前の便というのは利用があり、南島メディカルセンターまで行くのですか？

(事務局:瀬古課長)

はい、阿曾浦に乗っていく方がメディカルで乗り換えてみえます。

(加藤委員:名古屋大学教授)

これは、南島道方で古和行がありませんでしたか。

(事務局:瀬古課長)

メディカルセンターで阿曾浦行に乗り換えます。

(加藤委員:名古屋大学教授)

古和からきた、逆からくる便に乗り換えるということですね。わかりました。この資料では片方のダイヤしかわからないので、どうなっているかなと思いました。基本的には問題ないです。

(田畑会長)

一般の方にユーザーにわかるような、補足説明つけてもらっても結構です。理解しやすいように、表現方法もご考慮お願いいたします。ということで、町営バスダイヤ改正について、了解をしていただけますか。

～ はい ～

ありがとうございます。次が4番目の協議事項で、2月1日からのデマンドバス運行の変更と、もう一つは報告事項で、町がこれから考えている実証実験です。これも課長の方から、お願いします。

(事務局:瀬古課長)

合わせて、協議、報告をさせていただきます。

今、デマンドバスは4台の完全予約で運行しております。2月1日からのデマンドバス運行ですが、そのうちの1台を、一定のルート、時刻を決めて運行するような形にしたいと考えており、これがデマンドバスの運行体系の見直しの部分です。

それとあわせて、切原中津浜浦の実証運行ですが、先ほど先生からもご指摘ありました、実証運行を行って、そのあと本路線にしないというようなことはいけないよ、とそういったものも踏まえて、きちんと検証を行って、本路線に変えていきたいと思っております。

実証運行期間は、令和6年2月1日から3月29日までの2ヶ月間で、利用はどなたでもご利用いただけます。運行時間は、7時30分から16時30分までで、こちらの平日運行と書いてありますが、今まで大新東さんと協議をさせていただきながら、やはり土曜日にも利用が多いということですので、平日土曜日での運行で調整を行っております。時刻表については、今現在、協議の最中で、もう少し協議が必要かということで、決定次第報告させていただきます。

ルートにつきましては裏面を見させていただきますと、わかりやすいと思います。

「切原回転場」というところがございます。そちらから赤線で、五ヶ所バスセンターからその手前を曲がって役場に入ります。薬局前を通って、町民文化会館、五ヶ所バスセンター、それとコメリ・ぎゅーとらに入って、町立病院まで行きます。それから次に、青色の線に変わります。町立病院からコメリ・ぎゅーとらに入って、野添バス停手前を中津浜まで入っていく、この往復で1路線として考え進めております。

こちらについては、デマンド事業の見直しということで、予約がしづらいという声が多いということで、少し時間設定することで利用しやすくしていきたいと考えております。

料金については、1乗車200円、これはデマンド料金であり合わせていきます。それと、実証実験後にはこれを乗り継ぎ、町バスなどへの乗り継ぎ運行も含めて、今後ダイヤを検討していきたいと思っております。

簡単ですが、おおよその形で、この定時定路線で運行しますが、デマンドバスの利点を生かし、例えば、どこかの時間は定刻ですが、その近くは予約があれば、そちらも迎えに行き、また路線に戻ってくるというような動きをする路線体系を考えており、更に、「お迎え」は率先できるような形でやっていきたいと思っております。以上、簡単に説明いたしました。

(田畑会長)

皆さん、ご意見はございませんか。

(加藤委員:名古屋大学教授)

中津浜浦も切原もバスはありますが、この利用はどのぐらいかわかりますか。
それからデマンドは1日どのくらいの量がありますか。

(田畑会長)

それぞれの現交通体系の利用状況。何か把握していますか。

(事務局:瀬古課長)

はい。まず切原からの人数については手持ち資料がないものですから。

切原から出てくる町営バスは、小学校のスクールバスのような動きをしており、小学校止まりで、切原の方達がコメリ・ぎゅーとらや、町営バスに行くことが今現在できておりません。

中津浜浦については、逆に宿浦から路線が入ってきまして、そのまま宿浦に行くということで、病院などに行くことができず、どうしても遠いところからの予約が優先となり、中津浜浦地区からの予約が入り難いと大新東さんからお聞きしていました。そのため、この改善をする目的で今回実証実験を考えております。

(加藤委員:名古屋大学教授)

その説明だとわかりますが、通学とかあれば別ですが、両方とも町営バスとしては、難しいですね。

前段の小学校以外は難しいところだと思ったのでいいと思いますが、ここに一定の時間は走るよと割り当てをすると、さっき、他の遠いところの予約が優先でこちらが入り難いと言われたのですが、逆にこの定時での運行をすると、遠いところの予約が入らないですね。となると、これはまた問題です。

やはり遠いところは町営バスがあるときは、なるべく町営バスを使ってくださいねと言うことと一緒にやらないと、取り合いになります。どちらを残したいかと言ったら、もちろんデマンドは便利だと思うけど、町営バスがなくなってしまうたら、本当に予約が入らなくなるよということを考えたら、うまく使い分けて欲しいと言っていくことで進めないといけないのだと思います。

あとは実際モデル事業を2ヶ月やるということで、どのぐらい利用が出るかですが、本格運行に行くか行かないかと、行くためにやらなければならないと言いましたが、行く意味がなかったら止めなければなりません。その辺の目標があるのか、何人ぐらいであれば本格運行するのか、どのように考えていますか。

(事務局:瀬古課長)

すいません。人数目標としては、きちっと今現在、掲げてなくて申し訳ございません。

ただ、現在当町の一つの問題点として、病院バスがこの五ヶ所地内を無料で運行しております。できたらこのバスを最終的に廃止し、すべて町営バス、またデマンドバスで運行できるような体系をとっていきたいと考えております。以上です。

(加藤委員:名古屋大学教授)

それはまた別のことですが、それを言うとまた、無料バスの利用は何人ぐらいですか？と、聞きたくなりませんが、少なくはないですね。

だから、似たようなルートで無料バスが五ヶ所中心部は通っているけれど、そこから南の中津浜浦や北の切原地区にも行って時々切り替えて、この病院バスを取り込んだ形で、中津浜浦や切原も行く路線に変えていきたいという思いはわかりますが。実際どのぐらい利用があるのか、どういうニーズがあるのかを聞いて考えなければならないし、どうして統合できると判断したかは不明ですが、実際に運行したら本当に統合できるのかというのは、そのプロセスが何も無い。普通は次回の会議で議論となりますが、これは3月で終わりますからね。これは3月で終わるのですかね？

(事務局:瀬古課長)

3月で終わる予定はございません。4月からも継続したいと考えております。令和6年10月に本格運行を目指しております、その時に合わせて、町営バスの南勢地区線についても若干の路線の見直しを行って、改善を図っていきたいと考えております。

(加藤委員:名古屋大学教授)

今、終わる予定がないのであれば、そのように言っていただけるといいです。

(事務局:瀬古課長)

予算上ですね、申し訳ございません。まだ議会の方から許可もらっていませんので申し訳ございません。

(加藤委員:名古屋大学教授)

予算がつけば、6年度前半も継続する予定との含みということで了解しました。

(田畑会長)

はい。ありがとうございました。

実証実験ですから、結果のデータ部分をしっかりとね、お願いします。

(竹内委員:住民代表)

すいません。一つ質問いいですか。

予約により柔軟に運行するというので、個別に要望があったら答えるようなお話しでしたが、時刻表があって、そういうことはできるのでしょうか。

(事務局:瀬古課長)

時刻表に謳う予定にしておりますが、「早く出発することはございませんが、遅れて到着することがございます。」と書かせていただきます。あと出発時間は基本的に遅くならないように、主となるような、例えば町立病院や中津浜浦海浜公園などで、時間の余裕をみております。そこで時刻の調整をできるような形で、出発時刻はかえず運行をしたいと考えております。

(田畑会長)

わかっていただきましたか。消化不良になりますよね。

(竹内委員:住民代表)

たくさんいろいろ予約が入ると、そこはうまく行くのかな、といろいろ思いましたので。

(事務局:瀬古課長)

今回のこのバスルートについてはデマンドバスの乗降位置を運行するルートになっています。ただ、この中で小学校まで乗りたいとの予約が入った場合は、南勢小学校まで運行し、またルートに戻ってくるといふ風に、若干の動きはできると考えております。

(加藤委員:名古屋大学教授)

だとするとやっぱり絞ってダイヤ設定しないといけないと思います。つまり、さっき言ったように、他のところで予約があっても排除してしまうことにはなりますが、そこで使われなかったら問題になりますよね。だから、切原や中津浜浦で乗りたい人がいて、確実に 1 人、2 人が乗ってくれそうなぐらいの時刻をあてるということで、それで他は別に普通にデマンドが予約できるわけです。そうしてもらえばいいのですが、ただ一番行きたい時に予約できないってことでしたら、そこは切原や中津浜浦のために時間を取るといふことで、その時刻をきちんとあてることをやって欲しいですね。

例えば1日中、1時間に1本とか、そういう感じでやるのであれば、ちょっとそれはかなり車両的には無駄になります。

(事務局:瀬古課長)

ありがとうございます。この運行時刻については今までの予約データをデマンドバスさんが持っておりますので、それに合わせてしっかり時間を見て、そういったものも含めながら、検討していきたいと思っておりますので、時刻表の作成までもうしばらくお待ちください。

(田畑会長)

新しい方法に取り組みたいということで、予期せぬ様々な問題も出てくるとは思いますけど、ただ単にちょっとやってみるだけでは勿体ないし、経費もかかりますし、そこは綿密にすすめてください。

運行した結果が十分分析できて、乗車率が上がるようなプログラムを最初から立てていただいて、お願いします。では、この報告事項ですが、この会では了解していただけますか。

では次に、そのお知らせですが、三重運輸支局様からご説明をいただきます。よろしく申し上げます。

(前葉委員:中部運輸局三重運輸支局首席専門官)

時間をいただきましてありがとうございます。まずは 2014 年問題への対応からのご紹介でございます。

日本のバス運転手は一時期増加傾向にありましたが、令和 2 年度以降は減少しています。バス運転手を平成 10 年度から比較すると増えているように見えますが、これはバスの事業者数が増えており、バス業界全体としては、一社当たりのバスの運転手は不足しているような状況で、タクシーの運転手も大幅な減少が続いており、15 年間で約 4 割減少している状況です。(略)

続きまして、運転手の働き方改革、2024 年問題とはということで、ドライバーの労働時間の減少、バス・タ

クシーの輸送力の低下、費用減人が運べなくなるというようなことが懸念され、他の産業でも、人手不足のことは結構言われております。(略)

最後に、旅客運送 2024 年問題への対応です。運転士さんの賃金の見直しや、運転者の確保の強化、安全への投資などアピールして頑張っていたいただいておりますが、一方でコスト削減という状況になってきます。(略)

まずは自分の町のバスの本数や、ルートが、例えば今より少なくなってしまうかもしれない、その場合はどうしていったらいいのか、そういったことの、まずは身近なところの問題意識を持っていただければと思います。2024 年問題というのは令和 6 年 4 月を迎えて終わりではなく、その後も継続していく問題です。

続きまして、フォトコンテストのお知らせでございます。こちらは少し明るい話題で、コロナ禍もありまして事業者さん、現在大変な状況です。昨年 11 月に中部運輸局交通政策が企画した、「公共交通っていいな」、「大事だな」みたいな評価できる鉄道・バス・タクシー・旅客船の写真を募集しております。応募資格が中高生の方が対象ですので、よろしくお願ひします。また、撮影の際にはぜひ現地まで、公共交通で行っていただければと思います。私からは以上となります。

(田畑会長)

最後のフレーズがよかったですね。楽しみ中で、自ずと公共交通利用ということでいいですね。それから地域の難題に果敢に取り組んで、三重交通さんやデマンドバスさん、福祉バスや様々な交通体系で、何とか停滞に向かっていくものを止めたいし、むしろ、従来の概念と違った方法も、地域みんなで知恵を出して、そういう世相に向かっていけたらということで、これからも皆さんよろしくお願ひします。時間も迫ってきましたが、最後に町長さん今日の会議についてや、今後の方向性を、教えていただければありがたいです。

(上村町長)

～ 能登半島地震お見舞い、新年ご挨拶、会議へのお礼 ～

皆さんこんにちは、本当にありがとうございます。今日も多くの議論をいただき、我々は町民皆様の生の声を聞いて、利便性を考え、目配り気配り、思いやりを持って対応していきたいと思っております。加藤先生には、いつもご協力、また的確なご意見をいただき、ありがとうございます。参考にいたし、詳細なわかり易い資料の提供など心がけ、これからも進めて参りたいと思ひます。

この会議でもご意見をいただきますが、地域を回っておりますと、子供から高齢者までどうやってご満足いただくかというのが大事でございます。地域交通に関しましては皆さま、いろいろな方にご協力いただいで進めるのが我々の本位であり、これからも皆さまとしっかりタッグを組んでやってまいりたいと思ひます。

会長からもありましたが、行政だけではなく、町民の皆さまとまた外の力も借りながら、この地域のことを考え、充実させていきたいと思っておりますので、どうぞご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

(田畑会長)

町長は、いろんな分野に関わりますからお忙しいのですが、最初から最後まで意見を聞いてくれる、皆さんの顔を合わせてこういうふうには議論してくれるこの地域公共交通会議は素晴らしい地位をいただいていると私は思っています。新年早々の会議本当に長い時間ありがとうございました。終了いたします。

～ 閉 会 ～